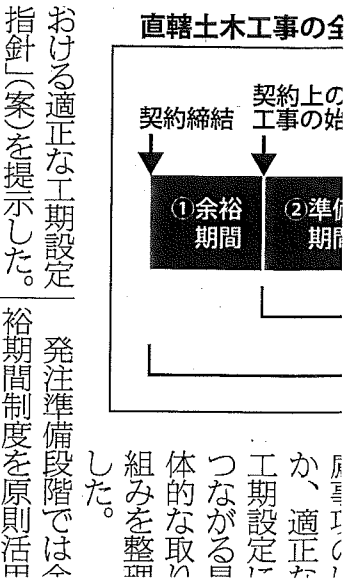


ステーション▽GNSS受信機▽各種ソフトウェア▽タブレット端末▽ウェアラブルカメラなどICT関連機器を予定。助成率3分の1以内で上限100万円。計20社程度への請受付を開始したい考え。助成対象者は今後決定するが、中小企業等経営強化法(16年7月施行)に基づく「経営力向上計画」の認定を受けた事業者を要件の一つとして想定して

土木工事を対象に適正な工期設定に関する指針を年度内に策定する。工事の発注準備から施工、完成後まで全工期を構成する▽余裕期間▽準備期間▽施工に必要な実日数▽不



記録的な暖冬により、県内でも道路除雪業務に影響が出ている。1月末現在で受託業者に取材したところ、「除雪作業を目的に人員確保していたが、降雪がないため余剰人員になっている」(雲南県土管内)、「除雪用重機・機械の稼働がなく重機・機械の損料収入が見込めない」(松江県土管内)。人員やコスト面を懸念する声が多く聞かれた。

(安食剛)



費用について、県道路維持課は「大雪注意報が発令され、道路の危険な判断をするため待機はどに備え、受注者と常時連絡がとれる体制をとる必要がある」と県土整備事務所が判断した場合は待機を指示し、この時間の待機費用を「除雪機械の経費や償却費が賄えない」(雲南・浜田県土管内)と「支払うこととしていい」と説明。16年度も

松江市 千鳥橋加 新年度

松江市は、県庁北側の松江城の堀に架かる

県道路維持課によると、19年度(1月末現在)の除雪関係支出は4億4400万円。このうち、約1億円は凍結防止剤散布費用で、残りの大半を除雪機械の維持関係費など、いわゆる固定的な支出が占める。1月末現在では、過去5年間で最も

除雪

人・コストで懸念

少額で、豪雪だった17年度(雲南県土管内)など。除雪期間が終わっていないので正確な数字ではないが、現時点で昨年度比3〜4割減という声も強く、「シーズ2800万円、17年度は1500万円の支度」1500万円の支度(松江市)、「塩カル散布をしてほしい」(松江県)との要望もあ

また、除雪時の待機費用が積雪量を目視確認

